



侵略的!?

第35回 農業環境シンポジウム

# 外来牧草をめぐる諸問題

-メリット・デメリット、そしてこれから-

日時: 平成26年10月25日 (土) 13:00~17:30

会場: ベルサール神保町 Room1+2

趣旨説明：  
外来牧草の生態影響と産業利用  
—管理と利用の間で—

独立行政法人農業環境技術研究所

西田 智子

# 目次

1. 日本における外来植物の状況
2. 外来牧草の畜産業での利用
3. 外来牧草の生態影響
4. そしてこれから

# 1. 日本における外来植物の状況

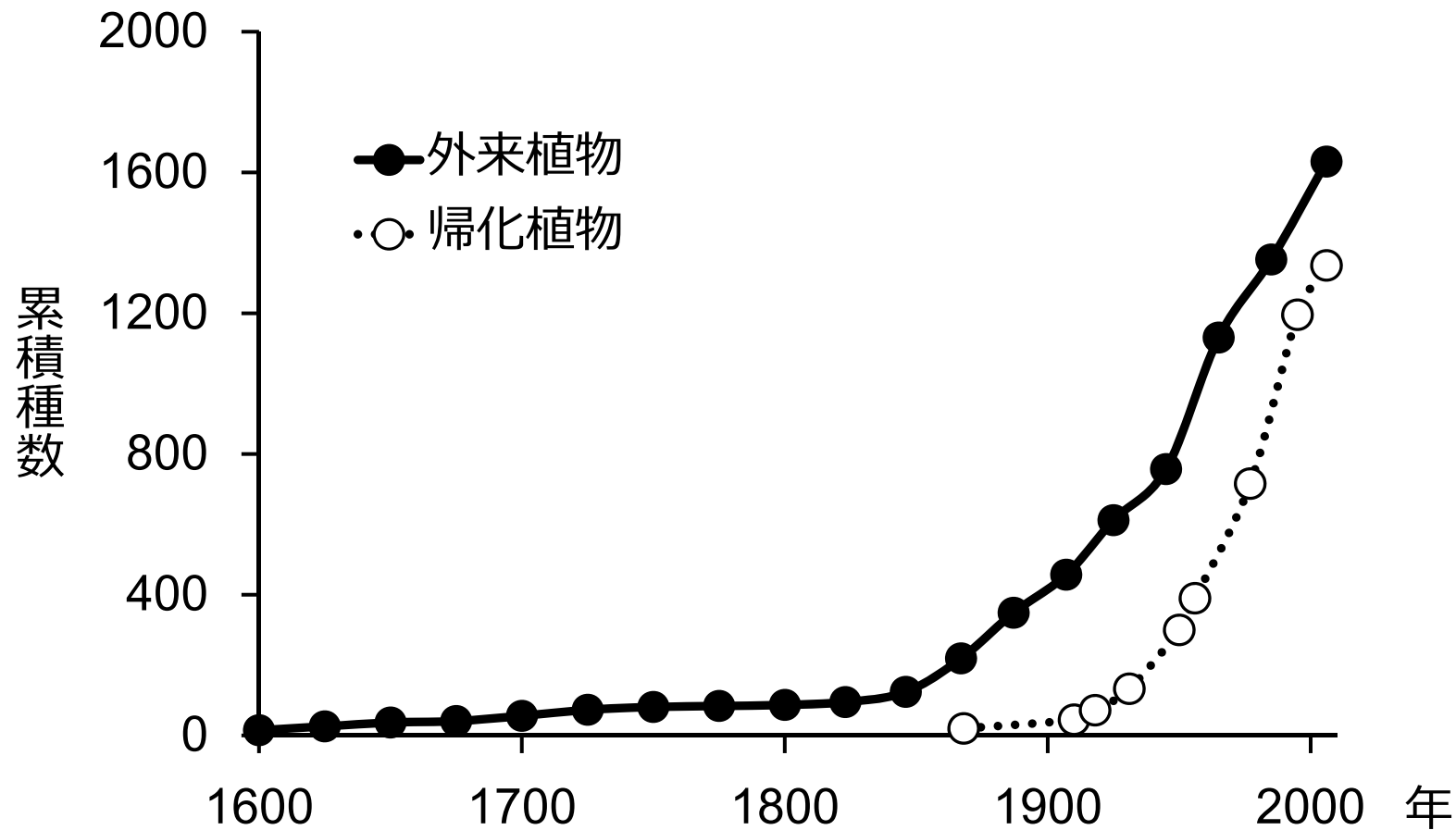


図1. 日本における外来植物及び帰化植物の累積種数

外来植物は渡来年代がはっきりしている1,631種が対象。2010年の外来植物種は2,253種。  
(Enomoto 1999、狩山1987、近田ら2006、村中2008より作成)

表 1. 導入目的別外来植物種数 (村中2010)

	導入目的	合計	侵略的外来植物	
			種数	割合 (%)
全種数		2,253	127	
内訳				
	意図的			
	観賞用	876	57	6.51
	薬用	373	29	7.77
	食用	306	25	8.17
	木材・繊維	144	16	11.11
“草”では同じ種が多い。	飼料・牧草	224	40	17.86
	緑化・砂防	125	26	20.80
	非意図的	1,024	96	9.38

何らかの目的を持って導入されたものが過半数

項目間で種の重複があるため、内訳の合計種数は全種数より多い。「侵略的外来植物」とは、生態系に被害をもたらしている外来植物。(村中2010)

## 2. 外来牧草の畜産業での利用



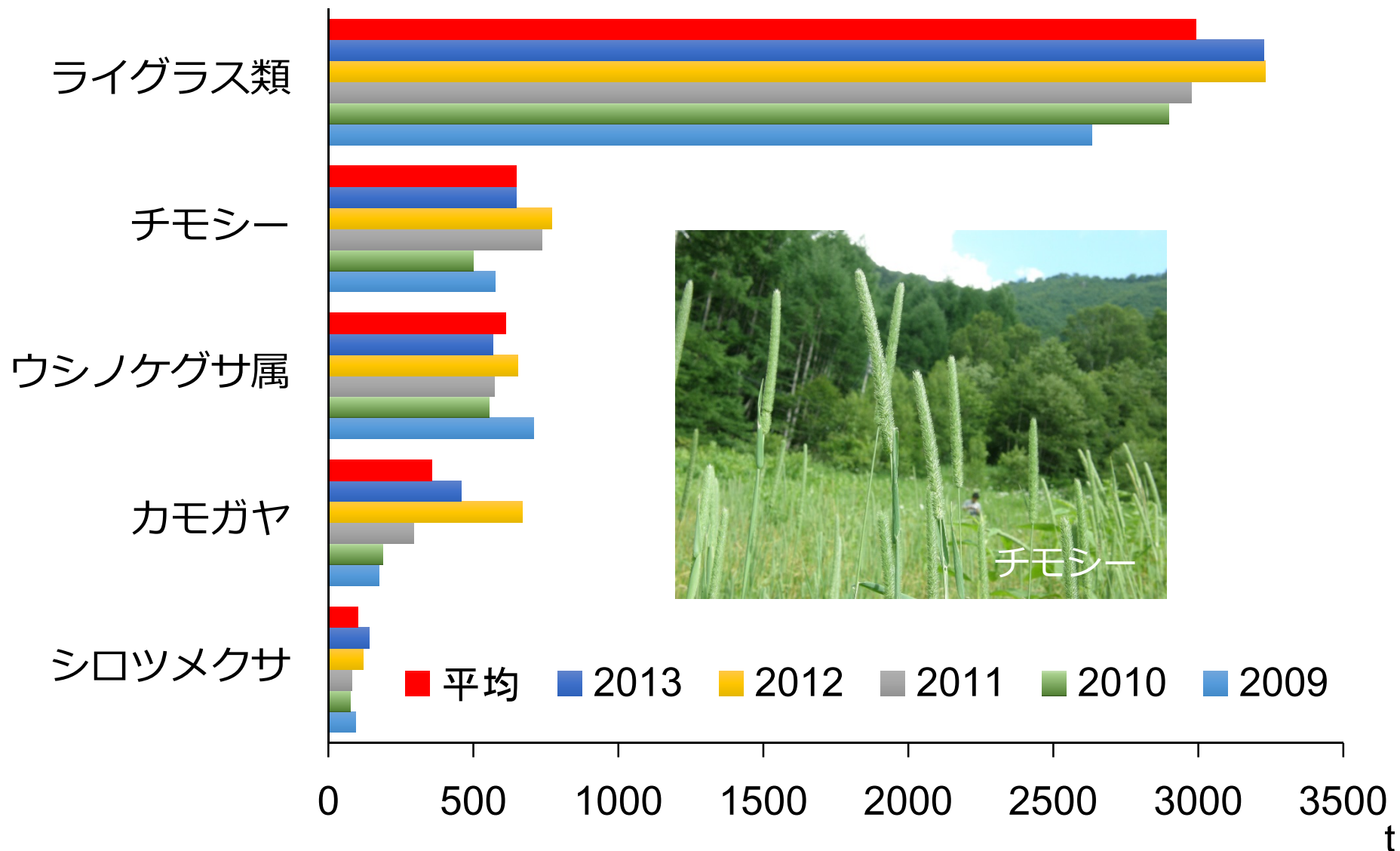


図2. 飼料・緑肥用種子輸入量（植物防疫所輸入植物品目別・国別検査表）

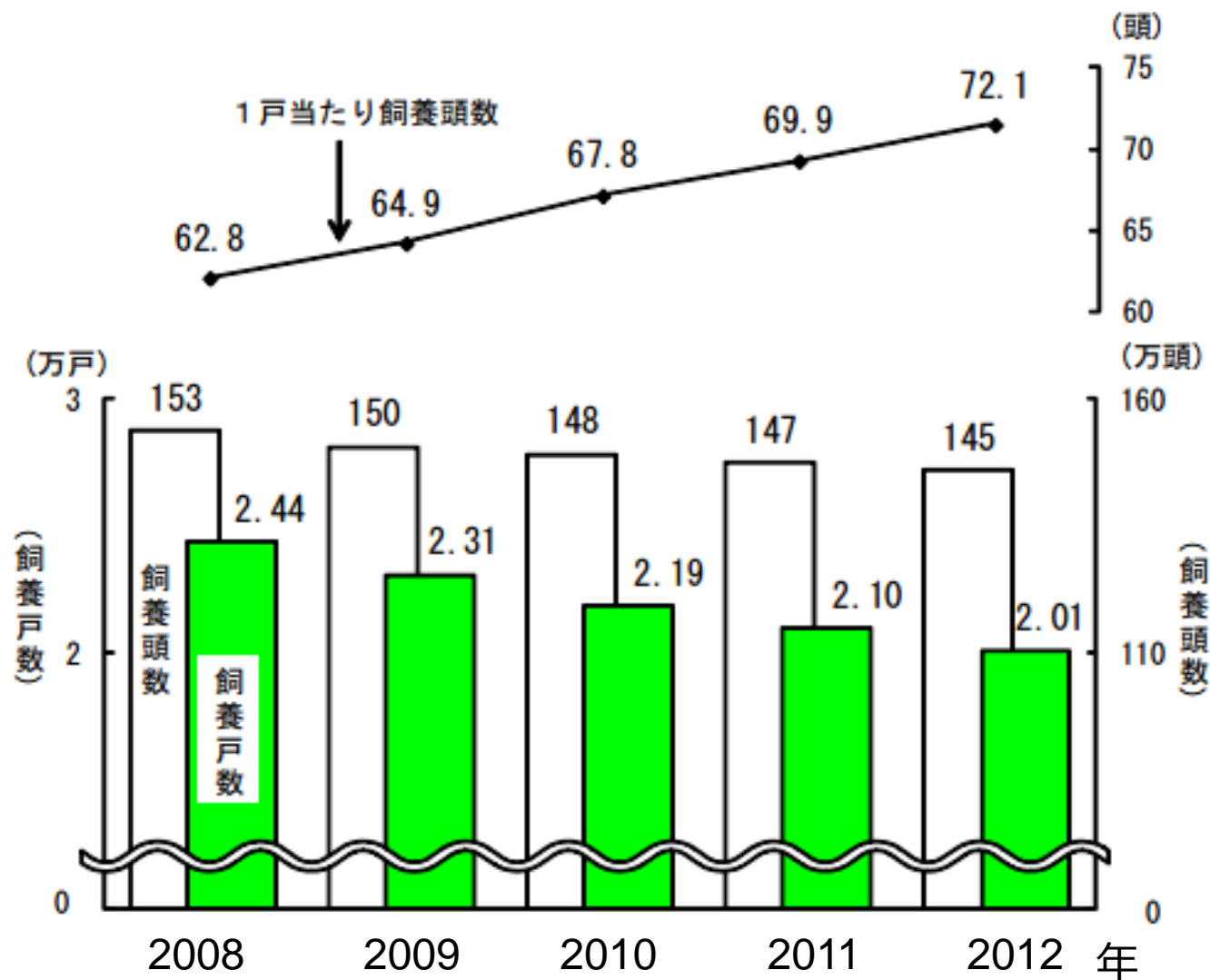


図3. 乳用牛の飼養戸数・頭数の推移（農林水産統計）



### 3. 外来牧草の生態影響

牧草に求められる性質

1. 牛の餌として価値（栄養価や生産性など）が高い。

2. 人手をかけなくても生育する。

人間の管理下を離れても、繁茂しやすい。

表2. 専門家アンケートによる外来植物の影響度評価  
(小池ら 2010)

	河原・崩壊地の貧栄養砂礫地	里山の二次草原
ネズミムギ	5	—
オニウシノケグサ	—	5
カモガヤ	—	14
チモシー	—	15
シロツメクサ	—	17

回答した専門家は74名。表の数値は、それぞれの生育環境において在来植生に影響を与えているとされた外来植物のうち影響度が何番目であったかを示す。表にあげた2つの他、高山植生など10の生育環境を対象としたが、それらの環境で外来牧草が問題になるとした専門家は数が少なく、数値解析の対象（5名以上）とならなかった。



オニウシノケグサ

このような状況から、種子輸入量の多い外来牧草はすべて侵略的外来種リスト（仮称）の候補種。



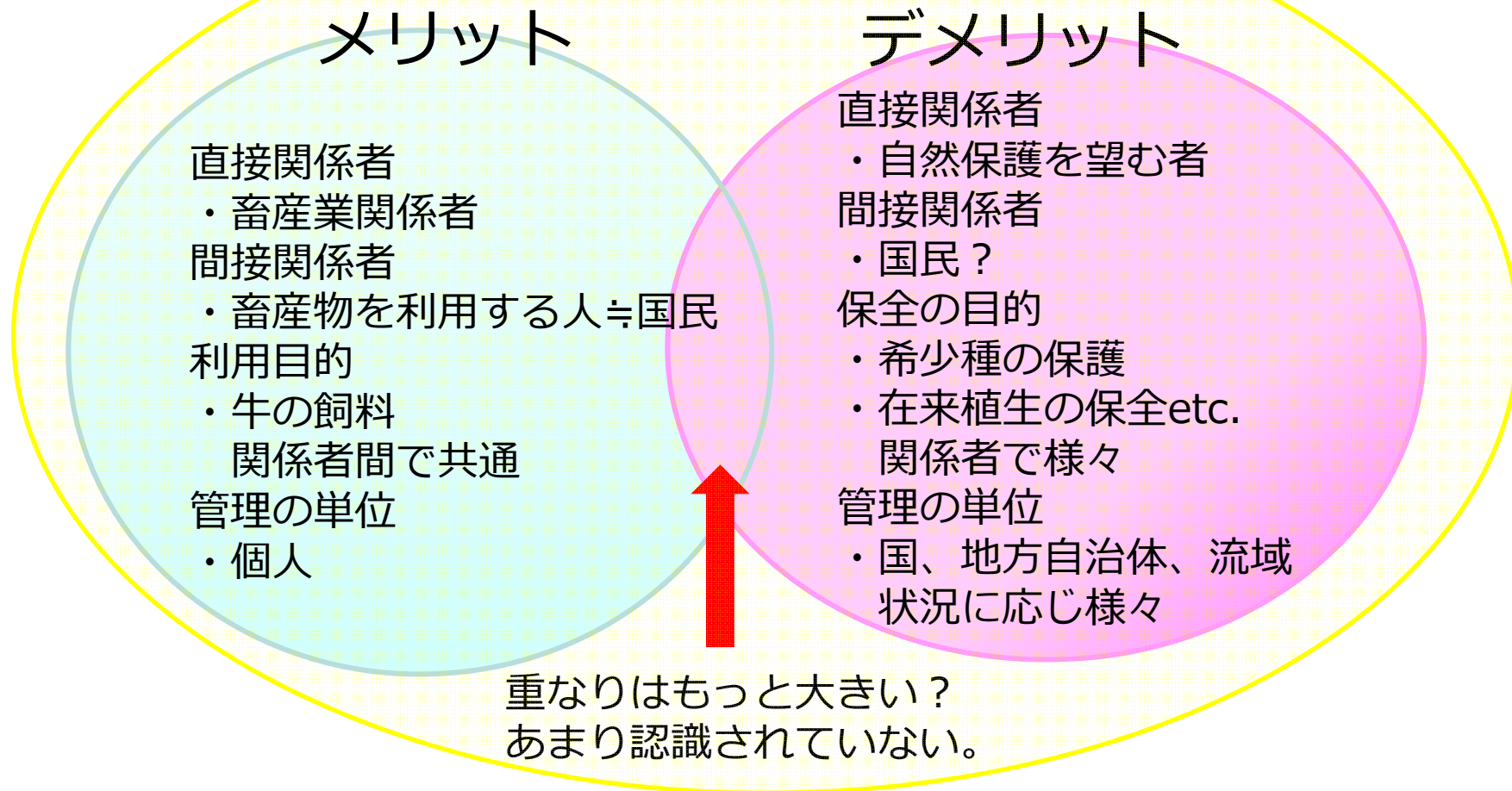
カモガヤ

注：これら牧草地以外で生育している牧草が、畜産由来かどうかは、不明。

# 4. そしてこれから

具体的には？

直接関係する人が納得のいく管理方法が必要



## 本日のプログラム

1. 侵略的外来種対策について – 侵略的外来種リスト（仮称）を中心に  
環境省自然環境局 谷垣佐智子
2. 国立公園における外来牧草の定着と生育環境  
(独) 農業環境技術研究所 楠本良延
3. 河川における外来牧草の侵入 – 河川水辺の国勢調査の結果から –  
(株) 建設環境研究所 宮脇成生
- 休憩 ---
4. 日本の畜産業における外来牧草の位置づけ  
農林水産省生産局 杉山喜実
5. 外来種被害防止行動計画～外来牧草を利用する立場から  
神津牧場 清水矩宏
6. 日本の在来野草は外来牧草の替りになるか？  
宮崎大学 西脇亜也
7. 総合討論                      コメンテーター (公)日本自然保護協会 高川晋一